

リーディングDXスクール事業

【実践事例】

相模原市立中野中学校

【取組内容】 仲間と協力・相談をしながら、自分に合った方法で魅力を伝える取組

3年 特別活動「修学旅行報告会」

3年生が修学旅行を通して学んだことを、2年生へ伝える「報告会」を実施した。写真を活用したり、箇条書きにしたものを詳しく話したりと修学旅行の魅力がどのようにしたら伝えられるのかを意識し、学んだこと、感じたものをプレゼンテーション資料にまとめ、報告した。

資料作成は、友だちと見合ったり、伝え合ったりしながらよりよいものになるように試行錯誤し、互いを認め合いながら取り組む姿が見られた。

報告を聴いていた2年生もノートに要点を書いたり、Chromebookにまとめたりと自分の最適解を見つけ、来年の修学旅行への期待を高める姿が見られた。

3年生の姿を見て、修学旅行の魅力をまとめる2年生



友だちと協力しながら修学旅行の魅力を伝える様子



自分のこだわりをもって修学旅行の魅力を伝える様子



リーディングDXスクール事業

【実践事例】

相模原市立中野中学校

【取組内容】 生徒が分類・整理するよさを見つけ出す情報活用能力の育成

2年 国語科「単語ごとに共通する特徴を見つけ、分類する」

<生徒の変容>

ICTの活用前は、共通する単語を教科書に直接色分け等をして分類したり、ワークシートに記入したりすることで分類をしていた。

ICTを活用するにあたり、分類の仕方を教師が教え込むのではなく、生徒同士でどのようにまとめると分かりやすくなるのかを相談し合うことで、生徒が思考しながら情報活用の知識を学ぶことができた。

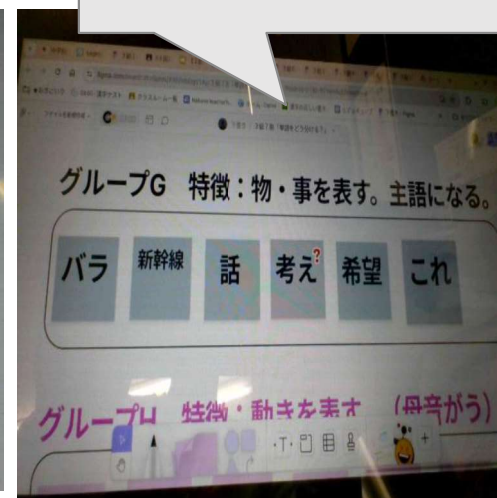
「デジタルホワイトボードソフト」を活用し、単語を直感的に操作ができることで試行錯誤がしやすいようにした。また、話し合いを通して結論に至らなかったものに関しては「？」のスタンプを活用することで受け取り手にも分かりやすい情報整理を意識することができた。

条件をいつでも確認ができるように提示している。大まかに提示をすることで考える余白を設ける。



友だちと対話をしながら分類・整理をすることで互いの思いを確認しながら試行錯誤ができる。

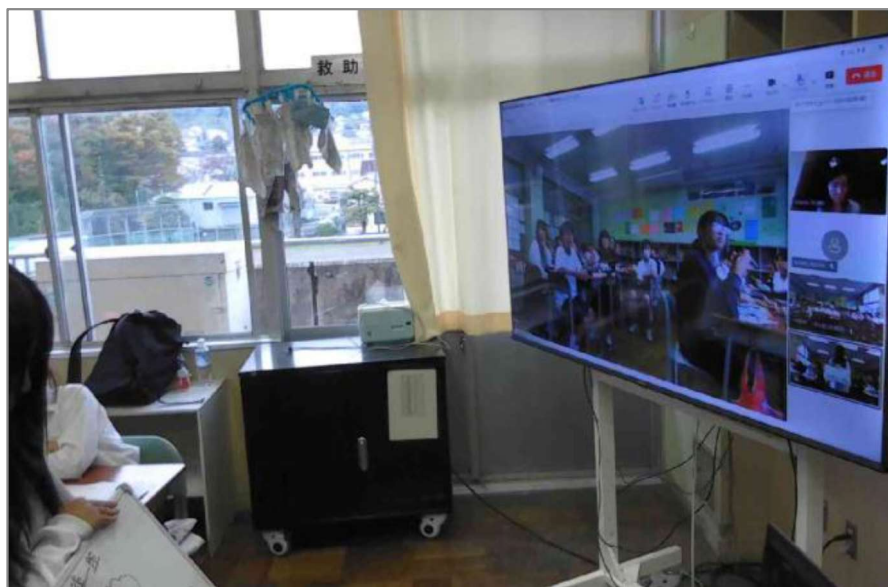
生徒が編集している内容をテレビに投影し、指導がしやすい環境を整える。



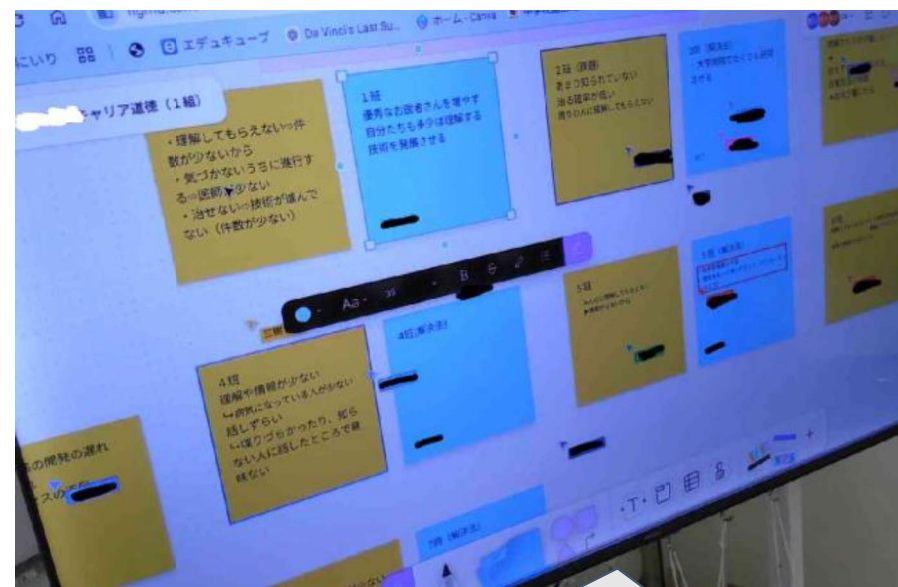
リーディングDXスクール事業 【実践事例】 相模原市立中野中学校

【外部講師とのオンライン授業】 オンラインで広がる世界の見え方

1・3年生に向けて「世界中の人々のより健やかで輝かしい未来」の実現をめざし大手薬品工業と「共生社会について考える」をテーマとしたオンライン授業を実施した。希少疾患を題材に「すべての人が輝く社会はどのようにつくることができるのか」という共生の視点で物事を考えるきっかけとなった。



講師とクラスの様子をオンラインで共有した。



講師の話を聴くだけではなく、問に対して「デジタルホワイトボードソフト」を使って自分たちの思いを伝えた。